

第 19 号
2019. 7

青梅のにじ

〈発行〉

日本基督教団 隠退教職ホーム
にじのいえ信愛荘
運営委員会 須藤 繁

〒198-0052 東京都青梅市長淵2-687
電話：0428-22-2283 FAX：0428-22-2317
Eメール：nijinoiesinaiso@wish.ocn.ne.jp

振替口座番号 00120-3-358467

加入者名：にじのいえ信愛荘



先祖の列に加えられる希望

日本基督教団総幹事 秋山 徹

イラストを心よりお祝い申し上げます。

昨年のクリスマスのことになりましたが、教団の「にじのいえ信愛荘」と名古屋にある「まきば」での礼拝で、救い主の到来を告げる働きに加えさせていたいただきました。両施設共にキリスト教会の信徒の熱い思いによって建てられた施設で、毎朝礼拝が行われ、賛美と心からの笑顔が満ち、祈りの声がいつも聞かれる施設です。

「にじのいえ信愛荘」では、クリスマス礼拝とあつて、東京教区、西東京教区、全国教会婦人会連合の、この荘を支える多くの方々と共に、隠退された教職とそのお連れ合いの懐かしいお名前やお顔に再会し、嬉しく思いました。特に教会の働きの一線から離れた牧師と牧師夫人の生き生きと元気な姿がとても印

象的で、それぞれ現職の時代にはクリスマスシーズンともなると、八面六臂の活躍をされたであろうその姿を髣髴とさせられ、楽しい時を過ごさせていただきました。

旧約聖書のアブラハムやイサク、ヤコブなどの族長が、生涯を終えて死んだとき、「先祖の列に加えられた」という独特の表現があります。たとえばアブラハムの場合は、175年の長い生涯でしたが、「長寿を全うして息を引き取り、満ち足りて死に、先祖の列に加えられた。」(創世記25章7-8節)と記されています。信仰者の死を表現する様々な表現がある中で、この言い表しについて以前から気になって思いめぐらすことが多くあります。「先祖たちの列に加えられる」ということは、今生きている者の列には加えられないと一線が引かれていると同時に、神の導きのもとで生涯を歩んだ人々は、主にあつて生きて語る者として、確かな存在が認められているこ

とを意味していると思います。モーセが燃える柴の中から、イスラエルの民を奴隷の家から導きだす者として召し出された時、主なる神は「わたしはあなたの父の神である。アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。」(出エジプト記3章6節)とご自身を紹介されました。モーセと神とを関係づけ、繋ぐものとして、先祖の列に加えられたアブラハム、イサク、ヤコブの存在が引き合いに出されているのです。アブラハムの生涯を通して働かれた神の御業が、神と人間とのかかわりあい、のりアリティーを示し、また、神の導きを通して生き抜いたアブラハムの生涯が、われらに伴い生きた神のりアリティーを、証しするものとなっているということです。

「にじのいえ信愛荘」で今の時を過ごしておられる隠退教師とお連れ合いの方々は、まだ先祖の列に加えられるはいませんが、わたしにしても、この方々にしても、やがて先祖の列に加えられるという希望をもって、クリスマスの良き知らせを聞きながら、最後の地上の歩みをしていることを覚えました。

イースター 礼拝

にじのいえ信愛荘・礼拝堂

2019年4月23日(火)

司式 深山 祐師
奏楽 横山利江姉

前奏

讃詠 546

主の祈り

交読文 4 詩16篇

聖書 ルカによる福音書
2章13〜22節

祈禱

讃美歌 146

説教 辻 哲子師

祈禱

讃美歌 148

使徒信条

聖餐式 司式 辻 哲子師

配餐 松本明子師

稲垣善子師

讃美歌 205

献金感謝 吉川幸子師(祈禱)

高崎 ワカ姉

田中真理子姉

頌栄 541

辻 哲子師

祝禱

後奏

イースター礼拝説教

新しい時代の到来



牧師

辻 哲子

ヨハネによる福音書

2章13〜22節

主の復活は人類の歴史を変えました。地上に〈罪の赦し 体の甦り 永遠の命〉を信じる主の教会が誕生したからです。

一・神殿と人間の貪欲

主イエスは過越祭が近づいたのでエルサレム神殿に入られました。神殿の庭は犠牲の動物を売る商人、両替人、巡礼者の値切る大声で騒然としていました。主は突然、縄で鞭を作り両替人の金をまき散らし台を倒し、「わたしの父の家を商売の家としてはならない。」(16節)と言われました。

父なる神を礼拝する神殿が、人間の私利私欲を暴露する場所に化しているのを、主はお怒りになりました。しかし、弟子たちも人々も主の怒りを理解しませんでした。人間は貪欲の罪に

無自覚であるからです。

二・三日で建て直す真の神殿

「弟子たちは『あなたの家を思う熱意がわたしを食いつくす』と書いてあるのを思い出した。」(17節) これは、詩編69編10節のダビデの神殿への熱意と重ねて主を見たのです。ユダヤ人は「あなたは、こんなことをするからには、どんなしるしをわたしたちに見せるつもりか」(18節) それに対し主は「この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる。」(19節) ヘロデ王は46年もかけて神殿をたてたことと比較して揶揄しました。

三・復活の主の体なる教会

「イエスの言われる神殿とは、御自分の体のことだったのである。イエスが死者の中から復活されたとき、弟子たちは、イエスがこう言われたのを思い出し、聖書とイエスの語られた言葉とを信じた。」(21〜22節) ご自身の体が神殿とは、キリストの体なる教会のことです。そこでは牛や羊の献げものにより、罪の赦しを乞う必要はありません。主が人間の貪欲による罪のすべてを十字架で贖われるからです。

霊と真理をもつて礼拝する教会
二、三人の名によって集まる共同体を主は地上にお建てになりました。

四・新しい時代の到来

当初、主の言葉が分からなかった弟子たちは主の復活後、聖書とイエスの言葉が分かり、主のご命令通り宣教に遣わされました。復活の主は約束通り聖霊を送り、力を与えました。

私たちは、生きている時にキリストの体なる教会につらなり〈罪の赦し 体の甦り 永遠の命〉を信じる信仰へ導かれています。今は、それを心から告白できるほどの理解と信仰がなくとも、弟子たちのように、後で分かせていただけるのです。

私たちは時には、現実のきびしい状況に絶望的になることがあります。不信仰と貪欲な罪に無自覚であることがあります。

復活の主は、私たちを悔い改めに導き、立ち上がらせてくださいます。キリストの体なる教会が、復活の主による新しい時代の到来を喜び、力強く福音を証していきますように、聖霊の助けを求めましょう。

(日本基督教団 隠退教師)



2019年 イースター 祝会

荘員22名を含む 参加者 59名



パッサ、ショパン、モーツァルト
などのメロディーが、
ホール一杯に広がりました。
一同うっとり



演奏は鳥居留美子氏 花小金井教会員



讃美歌の伴奏は伊藤地塩師

おはかのなかから
イエスさまが
およみがえりになりました。
ひよこもピョピョ
おめでとう
イースター
イースター



青梅に来て15年。今年6月で90才
美味しいごちそうをいただいたので、
まだ長生きできそうです。池田貞子師



にじのいえ信愛荘が、平安で祝福に満ちた施設
でありますように、祈り、労したいと願って
います。今年度天に移られた3名の方々を覚え、
共にイースターの礼拝を守ることができ感謝
でした。
須藤繁運営委員長

ひこばえに花も咲きたりイースター
看護師 金井ま子



山笑う！5月は本当に緑がきれいで、ウグイスも啼
きます。防災無線が時折風に乗って聞こえます。尋
ね人です。対象にならないように気をつけたいで
す。宮本恵師

報告 阪口和美



故 井柳福次郎
2018年11月10日召天

牧師 藤田 義哉

井柳福次郎先生が、召されるための眠りにつかれました。神さまが、先生に与えてくださった伝道者としての歩みのすべてを感謝いたします。

井柳先生と私との関係は、信愛荘五〇年記念誌『青梅の里』に書かせていただいたとおり、5年ほど前のクリスマス、子どもたちを連れてページェントで荘をお訪ねした時、私たちのメンバー、CS教師の一人、四日市教会出身の高橋洋平兄に洗礼を授けた井柳先生がおられ、劇的な再会が与えられたばかりか、多目的ホールを走り回る子どもたちを前に、先生が「わたしは藤田義哉牧師のあのくらしいの時をよく知っているのです」、そして続けて「奇跡の起こる信愛荘」と言われ、大変に場を盛り上げてくださいました。いったい何が起こっているのか分からない子どもたちも、今、何かと

でも温かい、イエスさまの空気に包まれているような、すなわち、ここにも教会がある！という感触をつかんでくれていたと思います。あの時、先生は本当にお元氣そうで健やかな隠退生活を営んでおられると、とても嬉しく思いました。

私は三重県尾鷲で生まれ、よく父には牧師会や何かの集会や訪問に、母には幼稚園の会議か何かで連れ回され、松坂、四日市、阿漕、鵜方、紀伊長島といった教会名と牧師の顔が今でも浮かびます。しかし正直に申しまして井柳先生、どこでお会いしたのがまったく記憶にないのです。しかし井柳先生は私に大切なことを教えてくださいました。それは、先生が、一人の牧師の子どもを、こんなわたしのことをも覚えていてくださったってことです。「子どもをまねく友はどなた」とあるように、先生から、いつでも余裕をもって周囲を見渡す牧会者の姿勢を教えられた思いでした。

召されるための眠りにつきしキリストの兵卒、井柳福次郎先生を想いつつ、改めて伝道と教会の形成に励みたいと願います。先生のすべてを神さまに感謝いたします。(東京東・下谷教会)

井柳牧師の思い出と信仰の継承

高橋 洋平

私が生まれる時、難産であつたせいもあり井柳牧師が心配する父を見舞つたと聞きます。小さい頃一泊修養会があり、お風呂で湯気の中、井柳牧師を父親と間違え声をかけ、恥ずかしかった覚えがあります。牧師館が暗く秘密基地のようで、牧師の子弟と共に牧師館で過ごすのは楽しみでした。子供の頃の井柳牧師の思い出は、信仰と関係ないものです。神様にしか言えない悪いことをしました。

井柳牧師もそのいくつかに悩まれたはずで。子供のころの記憶は大人と違い、いつまでも新鮮です。高一で授けていただいた洗礼、洗礼式では思っていたよりも強く、沢山の水と共に頭を押えられました。幼児洗礼を否定するわけではありませんが、あのときの思いは今でも忘れることなく、信仰のバトンタッチだったのだと思います。

信仰の継承が難しいといっています。私も教会学校の教師をしています。教会学校の業は信仰の業です。若い頃は信仰も弱く、経験も少なく教会学校の準備が

辛いこともありました。今では御言葉に聞き、与えられた御言葉を子供に素直に伝えるように少しずつなってきました。教会学校の教師をすることで、御言葉に親しみ自らの信仰が強められ、家庭生活をはじめ、自らの生活の基盤が形成されます。子供の教育は何にも勝り、まず、創り主を伝えることだと思えます。私自身に信仰を継承してくださった井柳牧師に、そして神様に感謝しています。

ところで「にじのいえ信愛荘」に教会学校の子供や家族と訪ね、降誕劇をするという機会が与えられました。三重県の教会でお世話になった井柳牧師が、東京にいらつしやるとは誰も知らず、私も目を疑いました。10年以上を隔てた不思議な再会でした。大げさかもしれませんが、神様のなさる業は人間の思いを超えていると思いました。当時私の通う教会の牧師をしていた藤田義哉牧師も、小さい頃井柳牧師と、伊勢で親交があつたそうで、私は神様の壮大な計画の中に、まだちゃんと置いていただいているのだと感じた瞬間でした。

(東京南・五反田教会員)

自己紹介

はじめは日曜学校の

活動の中で



長山 恒夫



篤子

2月下旬に「にじのいえ信愛荘」への入荘のお許しをいただきました。わたしどもは、当時、吉祥寺にあった相愛教会で導かれた者で、この度の入荘には皆さまの導きに感謝の思いを深くしております。

恒夫は、東京都杉並区阿佐ヶ谷の生まれで、戦争中、小学1年まで、そこで育ちました。

強制疎開で吉祥寺に転居することになり、小学校4年の時、相愛幼稚園が戦後再開した日曜学校に通い、以後、中学、高校、神学校、最初の任地である目黒の行人坂教会（東京・南支区）にも、そこから通いました。戦争がなかったら、転居もなく、教会も知らなかったわけで、不思議なことです。

高等学校のとき、立川まで電

車通学した関係で、友だちは青梅線沿線にも多く、青梅から御岳・奥多摩は、少年時代のなつかしい場所です。

わたしが洗礼を受けたのは、中学3年の時で、将来、牧師になりたいとの願いをもっていました。信愛荘には、所属教会の相愛教会の及川牧師に連れられて、地区青年会の活動として草むしりに来たことがあります。入荘しても、まだ、草をむしっておりませんが……。

みめぐみゆたけき

主の手にひかれて



篠原 愛義



節子

私たち夫婦は、今年2019年4月1日、長年の願いが叶って「にじのいえ信愛荘」へ入荘させていただき、心より感謝しております。

日本基督教団総会議長の石橋秀雄先生のお名前前で、篠原愛義の隠退承諾書が届きました。1965年から54年の長きにわ

たって、7つの教会に勤めさせていただきました。

その7つの教会は、九州教区の竹田教会、中部教区の富山新庄教会、さらに神奈川教区の溝ノ口教会と伊勢原教会、そして四国教区の大州教会（兼・日土教会代務者）、関東教区の鴻巣教会、最後に館林教会です。

2019年は、3月31日が日曜日でしたから、その日が篠原にとつて、館林教会での最後の主日礼拝になると共に、54年間の現役牧師として、最後の礼拝ともなりまして、感無量の思いがいたしました。

この54年間を振り返ってみますと、讃美歌21の461番のように「みめぐみゆたけき、主の手にひかれて」の日々でした。

「さびしき野べにも、にぎわう里にも」いつも主は共にいてくださいました。「けわしき山路も、おぐらき谷間も、主の手にすがって」やすく過ぎることができました。

これからの日々も「たえなるみめぐみ」を日々受けながら、同信の皆さまと共に信仰の歩みが続けていきたいと願っております。

開拓伝道に立たされて



春原 鈴子

1965年、春原禎三が東京神学大学卒業、4月1日に、東京都北多摩郡大和町に転入。教会のない土地で開拓伝道をする志を与えられたからです。茶畑や麦畑の広がる土地で、住民が増してきました。借家での礼拝から始め、消防詰所、プレハブ会堂、現在地の会堂まで、多くの祈り・献金・応援をいただいで、大和東伝道が支えられました。キリスト教を知らない地域の人々に、いろいろやってみました。教会学校だけでなく、学習教室、地域ごとの家庭集会、日常生活の交流のためにバザー、公園での紙芝居等々。子供達が自転車で作って集まり、教会が満杯。子供に連れられて来る親もありました。やがて、少子化、高齢化の時代となり、子ども達は自立して都会に進出、空家が目立つようになりました。いつまでも開拓伝道、と思っていたのですが、55年をもって、休息をいただきました。感謝。

心を高く上げよう

—— イースターを共に祝って

運営委員長 須藤 繁

在荘の皆様、荘のために祈り、献金等を捧げてくださった皆様、荘の運営に様々に関わってくださった皆様の尊いお志とお働きに心から感謝するとともに、イースターをご一緒にお祝いできたことを喜んでおります。

現在、荘では22名の荘員の方々が、平安の内に日毎の礼拝を捧げる生活をしてられます。

昨年度は、何より悲しいことに3名の荘員、元荘員の方々に天にお送りしました。難しい問題もありましたが、荘として病床訪問、聖餐、看取り、葬儀、納骨、後始末などの務めを果たしました。荘は自立施設ですので限界はありますが、今後とも、荘長、運営委員、職員の方々の協力のもと、召される時まで、また召された後も、牧会者としてふさわしくありますように、心を込めてお手伝いしたいと願っております。今年のイースターでは、先に召された先生方を覚えつつ、天と地において共に主を賛美する礼拝と祝会を持

つことができて、深く感謝しております。

他方、資金的な面では、感謝すべきことに大口の献金が幾口も寄せられ、懸案だったエアコン設置、エレベーター修理、車の買い替えが可能となり、快適な生活へと一歩前進させることができました。

また今春、一人の職員が退職し、その補充に不安が生じましたが、早期に後任の2名の職員が与えられ、感謝に絶えません。

ただ、ご存知のように、この「にじのいえ信愛荘」は専ら皆様からの献金等で、その運営資金の多くを賄っています。しかし、昨今資金が先細りとなり、日常的な経費は余裕が乏しいのです。運営委員会では、経費の節約やチャリティーコンサート（今年は大盛況でした）などにも力を入れておりますが、資金的には今年度も楽観視できない状況です。どうか皆様、荘のために引き続き、お祈りによる支援と共に資金的なお支えもいただけますよう心よりお願いいたします。

なお、運営委員会は3カ月に一度の委員会を中心に様々な活動を行っておりますが、特にこれまで未整備だった制度面、規

則面の検討をして、刻々と変わる状況に即応できるような体制整備を目指しております。運営委員会に対しましても、主の導きをお祈りいただければ幸いです。（東海・伊豆高原教会員）



2019年4月30日 にじのいえ信愛荘 在荘の皆さま

スタッフ・自己紹介

喜びをもつて主に仕えよ



岩間 智子

「にじのいえ信愛荘」の求人に応募した時から、主は私に「あなたは私に従いますか」と何度か問われました。17歳、高校生の時に受洗し、その後献身を決意し神学校へ行きました。

今回、主は私に再度献身を求められました。私の答えは最初弱々しいものでした。そんなある主日礼拝で、ノアの箱舟の説教を通して教えられ、「無条件であなたに従います」と、主に告白しました。その晩、松村施設長から電話をいただき、一週間後に正式に採用していただきました。働き始めて、「ここも神の御国なり」と感じ心から神様に感謝しております。欠けだらけの私ですが、「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい」（第1テサロニケ5・16-18）を心に刻みつつ、主と皆様にお仕えしていきたいと思っております。どうぞよろしく願っています。

（東吾野キリスト教会員）

■チャリティコンサート報告

「まさに伝統ある関西学院大学
グリークラブの公演、素晴らしいの
一語に尽きる」と、アン
ケート用紙のすべてに記されて
いました。「あの心に染みる男性合
唱のハーモニーは、どのように
して生まれるのでしょうかー」
KGグリーの神髄を見たー等々、
その表現は様々ですが、会場を
魅了したのは確かでした。この
企画は、「関学グリーの関東公演が
ある。」との情報を得て、関係者
のご厚意で「2019年3月9日
(土) 青山学院大学ガウチャー礼
拝堂にて」が実現しました。

新年が明けた早々に、問い合
せが殺到、一ヶ月前にはチケット
は完売、「もし、当日入場でき
ない方々が出た場合の手当てを、
いかにするか。」が課題でした。

当日のプログラムは、愛唱歌
集から始まり讃美歌集、バー
バースヨップシヨータム(ア
メリカ発祥の合唱形式／振り付
け付き)、組曲「アイヌのウポ
ポ」と進み、お見事！としか言
いようのないものでした。メン
バーには、4月に入学した経験
の浅い学生も含まれているとの

こと。また、関学グリーを支え
ているのは、マネージャー層
(17名)の厚さにもあり、公演
一ヶ月前に、わざわざ西宮から
2名の学生が上京し、一日がかり
で会場視察と綿密な打合せを
しました。「縁の下の力持ち」的
存在です。

「にじのいえ信愛荘」のため
に、遠くはるばる関西から夜行
バスで駆けつけてくださった関
学グリーの若者達に、心からの
感謝を捧げます。

(募金小委員会 西村佳子)



「にじのいえ信愛荘」 ご入荘へのご案内

「にじのいえ信愛荘」は、豊か
な自然に恵まれた、緑の多い東
京郊外の青梅市にあります。

長く伝道牧会に尽くされた隠
退教師、お連れ合いの皆様が、
神の家族として祈りに満ちた生
活をお過ごしです。毎朝の礼拝
と食事を共にする以外は、各自
自由な時間があります。また、
教区・支区や教会からの訪問や
交流、お茶会もあります。お花
見など近隣の自然を楽しむ行事
もあります。

現在、22名がご入居で、单身
者用、夫婦用各一部屋が空いて
います。ご入居の場合には、「身
の周りのことが一人でできるこ
と」等の条件がありますが、身
体の不調の場合には、病院の送
り迎えをはじめ、スタッフが誠
心誠意お世話をし、近隣病院と
の連携も密にして、介護保険に
よるサービス利用もできます。

月額(食費・光熱費を含め)7
万円(新館)、6万5千円(旧
館)です。ご相談や詳細は、ど
うぞご連絡ください。(TEL・FAX・
Eメール)



維持献金の感謝とお願い

「にじのいえ信愛荘」のため、
いつも皆様のご理解とご支援を
いただきまして感謝です。

今後も継続的に維持管理して
いくために、皆様からの維持献
金のご協力を何卒よろしくお願
いいたします。

○この度、2018年度献金報
告(含にじのいえ信愛荘決算
書)を同封いたしました。不
審点がありましたら、事務局
までご連絡ください。

○事務局には振替用紙と専用の
献金袋(個人)を用意してい
ますので、ご利用の上、教会
でまとめてご送金ください。

○献金者の中で、ご召天、転居
転会、中止の場合には、ご面
倒でも、ご連絡(メールも可)
いただけると助かります。

振替口座番号

0012003358467

加入者 にじのいえ信愛荘

TEL 0428(22) 2283

FAX 0428(22) 2317

Eメール

nijinoiesinaiso@wish.ocn.ne.jp

莊日記



施設長 松村 誠一

●2018年11月

- 5日(月)お茶会(24名)
- 8日(木)スタッフ会
- 10日(土)東支区壮年委員会来荘(6名)、風呂塩素メンテナンス
- 井柳福次郎師召天
- 14日(水)井柳師火葬前礼拝(22名)
- 井柳みどり姉他施設に入所
- 15日(木)井上医院往診
- 19日(月)第1回クリスマス委員会
- 20日(火)紅葉狩り(11名)
- 21日(水)LED交換
- 25日(日)靈南坂教会・教会学校収穫感謝来訪(7名)
- 26日(月)誕生会・相談会
- 27日(火)防災設備点検
- 28日(水)山添和加姉他施設に入所
- 29日(木)北島齒科訪問口腔ケア

●2018年12月

- 3日(月)お茶会(24名)
- A棟ボイラー修理
- 10日(月)スタッフ会
- 14日(金)青梅幼稚園のクリスマス会に参加
- 17日(月)東京聖書学校来訪
- 18日(火)庭園手入れ
- 19日(水)相談会・オルガン調律
- 20日(木)井上医院往診
- 21日(金)横浜本牧教会来訪(3名)

24日(月)青梅キリスト教会キャロリング(6名)

26日(水)「にじのいえ信愛荘」クリスマス礼拝・祝会(56名)

27日(木)全室電気系統チェック

●2019年1月

- 4日(金)オットー車検
- 7日(月)お茶会(19名)
- 10日(木)スタッフ会
- 17日(木)井上医院往診
- 21日(月)第1回イースター委員会
- 25日(金)青梅教会来訪
- 28日(月)誕生会・相談会

●2019年2月

- 1日(金)第2回イースター委員会
- 5日(火)レジオネラ菌検査
- 7日(木)スタッフ会
- エレベーター点検
- 10日(日)国分寺教会来訪(6名)
- 12日(火)口腔体操指導
- 15日(金)財務小委員会
- 18日(月)第3回イースター委員会
- 21日(木)井上医院往診、長山恒夫師・篤子夫妻入荘、運営委員会(於富士見町教会)
- 25日(月)誕生会・相談会

●2019年3月

- 4日(月)お茶会(21名)
- 9日(土)チャリティコンサート
- 14日(木)スタッフ会
- 山下富士子姉送別会

15日(金)水質検査

22日(金)漏電調査、B棟風呂不具合発生

25日(月)誕生会・相談会

春の植栽

30日(土)食事改善打ち合わせ

31日(日)山下富士子姉退職

●2019年4月

- 1日(月)お茶会(22名)
- 篠原愛義師・節子夫妻入荘
- 2日(火)春原鈴子師入荘
- 6日(土)A棟排水のマンホールより溢水のため修理工事
- 11日(木)スタッフ会
- 12日(金)B棟風呂給湯機取替え工事
- 14日(日)墓前礼拝(6名)
- 15日(月)通勤職員岩間智子姉勤務スタート(週5日1泊)
- 23日(火)「にじのいえ信愛荘」イースター礼拝・祝会(59名)
- 25日(木)井上医院往診
- 29日(月)誕生会・相談会

○2〜4月に5名の入荘者が与えられ、現在22名の方がお住まいです。空室は夫婦部屋・単身部屋各一部屋

○多くの先生方のご協力により、主日礼拝を守っていますが、新たに、飯田輝明牧師(溝ノ口教会)に11月25日の説教をお願いしました。

○4月より自主的に毎週1回祈

祷会が始まりました。なお、第5週日曜日には、辻哲子牧師説教ご担当後、辻先生と共に祈祷会が続けられています。

あとがき

第19号を全国の教会、読者の皆様にお届けします。ご執筆くださいました皆様にご心よりお礼を申し上げます。

新しく5名の入荘者とスタッフ1名の「自己紹介」も、めまぐるしい生活の変化の中、お書きくださり、ありがとうございました。

昨年11月に天に召された井柳福次郎先生は、在荘中、「僕はもう書けない」と、「青梅のにじ」執筆を断つておいででしたが、奇跡が起きたかのように、第17号にエッセイ「台風が届けた贈り物」をお書きくださいました。みどり夫人の父上の河村斎美牧師が、以前在荘中に荘の隣接地で、児童伝道に携われたという、ほのほとした素晴らしいエッセイでした。しかし、そのエッセイが最初で最後になってしまふなど、誰が予想し得たことでしょうか。

先生、誠にありがとうございました。

編集委員会

長・成松三千子 黒沢咲子

石井泰子 阪口和美

岸 俊彦師 鈴木功男